

福津民話劇団

せんげんどて モマと千間土手

〈あらすじ〉

江戸時代のなか頃のおはなしです。

ある嵐の夜に、ひとりの母親が村から姿を消しました。残された幼い千吉は、村の人たちみんなの手で育てられ、やがて「渡村」の石工のところへ奉公へ出ました。

この頃、津屋崎入海の東側に、新しく水田、畑、塩田を造るため、大土手を築く、福岡藩の干拓事業が始まりました。村人は、一生懸命、大土手の石積仕事に取り組みました。しかし、嵐や国中を襲った大飢饉、藩財政の不都合など困難が続き、村長（むらおさ）・源右衛門の苦労は絶えませんでした。

そんなある日、大人になった千吉が村に戻ってきました。そして・・・。

福津の歴史と文化を語り継ぐ津屋崎千軒。その礎となった津屋崎塩田の遺産のひとつ、千間土手のおはなしです。

〈演技指導 / 坂口 聡・プロフィール〉

15歳より芝居を始める。

2001年福岡に戻り、ミュージカル、ストレートプレイを中心に舞台活動をおこなう。「博多座」「本多劇場」「俳優座劇場」など福岡と東京で活動し、2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。2007年には、150万部のベストセラー小説「ハッピーバースデー」を全国で初めて舞台化にし、話題を呼んだ。

市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」を脚本・演出し、平成21年から29年まで毎年、「宗像ユリックス」で公演活動を行って来た。

劇団の活動や映画やTVドラマなど、活動の幅を広め、全国に演出家として招かれている。

勝浦人形浄瑠璃保存会

けいせいあわのなると

傾城阿波の鳴門

じゅんれいうたのだん

巡礼歌の段

近松半二、竹田文吉ら5人の合作

〈あらすじ〉

傾城阿波の鳴門は、「ととさまの名は十郎兵衛、かかさまの名は・・・」の語りで知られる有名な外題です。阿波の十郎兵衛・お弓夫妻は阿波藩のお家騒動に絡まれ、名を変えて大阪玉造に身を隠していました。そこへ、阿波に残してきた巡礼姿の娘・お鶴が、父母を探して訪ねてきます。ここで母と名乗れば、盗賊の一味としてお鶴にも災いがふりかかるかもしれません。お弓は涙をのんでお鶴を追い帰しますが・・・。

福津 ふるさとと劇場

2019



演目



第一部

福津民話劇団

「モマと千間土手」

第二部

勝浦人形浄瑠璃保存会

「傾城阿波の鳴門」

巡礼歌の段